



たいしも通信

ゴールデンウィーク直前の令和7年4月26日、北朝鮮はその前日の25日に南浦造船所で新型^{5,000}トン駆逐艦「崔賢」^{チエヒョン}の進水記念式典を盛大に行った、と発表しました。今回は防衛関係ニュース第7弾として、北朝鮮の新型艦についてお送りします。

◆新型駆逐艦「チエ・ヒョン」とは

艦番号は51、艦名は韓国のガルズグループKeppler(ケプラーと読むらしい)のメインボーカル、2002年生まれのチエヒョンさん由来、ではもちろんなく、北朝鮮において人民武力部長(国防大臣)などを歴任した人物名(1907〜1982/享年74歳)です。

この新型艦は艦橋の上部にAESA(フェーズドアレイ)レーダーのパネルと、別の小型平面型レーダーも複数設置されています。ここで誤解の無いように述べますが、フェーズドアレイレーダーIIイージスシステムではなく、アンテナに続くシステム本体で性能が決まります。但し、本来ならば他の艦艇等とデータ連携して何

ぼのものなので、性能には限界があると思われます。

通常ならば艦後部のヘリ格納庫とするスペースはVLS(垂直発射システム)に置き換えており、しかもこれは巨大で、弾道ミサイルが搭載可能と推定されます。北朝鮮は同艦を「多目的駆逐艦」と呼んでいます、実際には核攻撃用の対地打撃駆逐艦のようです。加えて防空用の艦対空ミサイルも非常に充実しているとみられ、広域防空艦としても機能しそうです。ただし北朝鮮海軍は艦隊を組むことなく単艦行動がほとんどになると思われる、搭載する防空システムも自己防御用のようです。また、船体後部のヘリコプター甲板のようなものは、最新の画像解析によるとデッキ部分が小さ過ぎてヘリ運用は難しく、UAV運用等と目されます。

武装は他にも艦首には主砲を1基、両舷には左右1基ずつ高性能

機関砲を装備しています。発表によると、超音速巡航ミサイルや戦術弾道ミサイルなどの攻撃手段、さらには陸上打撃作戦用の武器システムを装備し、これらを用いることで、さまざまな水上作戦を遂行可能ということです。

◆さっそく武器試験

北朝鮮メディアは4月30日に、28・29の両日で新型駆逐艦に搭載された巡航ミサイルなどを試射した、と報じました。金正恩朝鮮労働党総書記が視察し、同氏の娘も同行したとのことです。

先に述べたとおり、この駆逐艦は25日に進水式が行われたばかりで、核弾頭搭載を含む複数種類のミサイル発射が可能とされていますが、今回弾道ミサイルは発射していない模様で、巡航ミサイルのほか対空ミサイルや127ミリ艦砲、電子戦用の妨害兵器を試射した模様です。

◆最新型。とはいえ…

華々しく進水式を終え、試射まで行った本艦ですが、公開された衛星写真からは、意外な事実が浮かび上がってきました。進水式の数日後、実は曳航船によって再び乾ドックに戻されていたのです。この事実は本艦がまだ自力航行できない未完成の状態であった可能性を示唆しており、進水式の様子を捉えた写真や映像でも本艦は停止したままであったことが確認されています。韓国軍関係者は「初期段階の発射試験であり、それぞれの兵器システムを分離して試験が行われたようだ」とコメントしています。

▼編集後記▲

海自のFFMもがみ型が満載排水量^{5,500}トンとほぼ同規模なので、どうしても比較してしまいましたが、いかな水上艦でも単艦ではどうにもならないのはもはや世界の常識です。やはり核ミサイルのプラットフォーム一択ということなのでしょう。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。